

空間再生事業 劇団 GIGA
ガルシア・ロルカ悲劇三部作プロジェクト

悲劇

谷岡紗智の悲劇三部作
無料配布読物

【ご挨拶】

福岡の劇作家「谷岡紗智」の悲劇三部作を上演します。

谷岡紗智の作品は常に小さなコミュニティを描きながら広大な世界を描いています。

最小単位のコミュニティ家族を通して見る世界はどのような世界でしょう。

出演者・スタッフの家族コラムと、占い師MOZA☆魔巢見による占いをご準備しました。

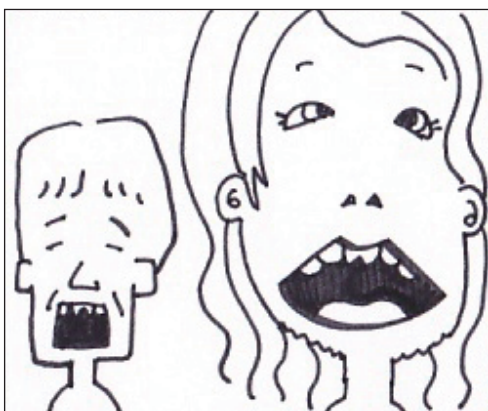
観劇前、幕間、また、観劇後にご笑覧ください。

家族について思いを巡らせていただけたらと思います。



【珍道中】家族で旅行に行くと大体何か起こる。いつの間にか旅行のこと「珍道中」と呼ぶようになった。一番の珍道中は、夏、たぶん伊豆、坂の上にある美術館に行こうとして歩いてたんだと思う。思ったより距離があって暑い中ぐったりダラダラ歩いてた。親戚か誰かにお土産でもらったぶどうが余計な荷物になり下がっていた。なぜか妹が何回も転んだ。何回めかで気がついた、サンダルの底がはがれてベロンベロンしていた。そりゃ転ぶ。ようやく目的地にたどり着いたら、古ぼけた自動販売機があって、どこのメーカーともわからない謎のジュースを買って飲んだ。うまかった。道に迷ってイザコザしたり、昼ごはんは何を食べるかでイザコザしたり、しょーもないことでイザコザしたりするから、一時期、家族旅行に行くのがめんどくさくていやだった。実家を離れてしばらく、たまにはまた「珍道中」したいなあ、なんて思う。行けばたぶんまたうんざりするんだろうけど。

谷岡紗智



【永久歯】父の前歯は差し歯だ。お人好しの父親が若い頃に喧嘩の仲裁をしたら逆に殴られたからだという。そう母親が教えてくれた。私もつい先日、前歯が欠けた。耳鼻咽喉科に行った時に、口の中に入った金属の器具が苦しくて反射的に手で払いのけてしまった。その勢いで前歯がほんの少し欠けてしまった。咄嗟に「あ、また父親に似てしまった！」と思った。うちの母親は、私が不注意でミスしたり、お人好しで損をしてる様子などをみる度に「それは父親の DNA だ。」と、口癖のように言う。父親は青森の出身で、子供の頃は父親の言葉がまったく理解できなかった。今も 3 割程度は母親の通訳によって理解している。母は九州の人間なので、食文化の違いにも随分と苦労したようだ。同じ日本人にもかかわらず、父親と母親で文化や言語が全く違う中で育った。母親の積み重ねた「似てる」や「DNA」という言葉が、このまったく違う人間同士を私に家族と認識させているように思う。

山田恵理香



【骨】《子どもの頃、家族で「海坊主」という四国にある旅館に行った。伊勢海老や蟹といった、豪華な海の幸が出てくる旅館。寝るところは、屏風で仕切ってるだけの大部屋だった。屏風一枚隔てた隣には大人数の集団客が泊まっていて、夜通しどんちゃん騒ぎをしていた。これはたまらん。と別の宿を急遽探して泊まることにした。》ここまでが僕が知っていること。この後、新しい宿では母の背が低いため子連れ3人に間違えられたらしい。広島に住んでいた頃、ほぼ毎日魚が食卓に出て来た。子どもの頃は肉やケチャップなどの目立つ味が好きだったので、「またか。」という気持ちだった。どうやら魚を桶に入れて売りに来て入る人がいたらしい。父も母も嬉しそうに魚を買っていたらしい。先日久しぶりに、母親の味噌汁を食べることが出来た。あまりの美味しさに驚いた。鰹節の感じや味噌の上品な感じ。自分で作ろうとしてもなかなか出来ない味だった。頭で判断出来ること以外でも繋がっていることが家族なのかと思う。五味伸之



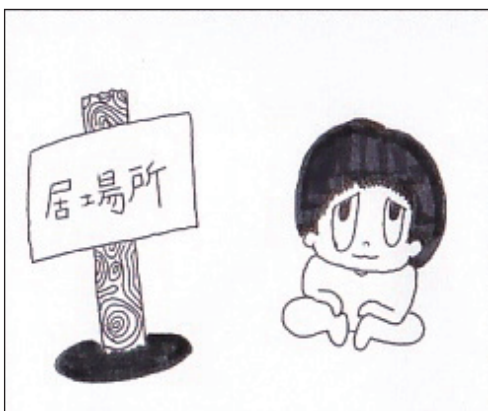
【好きと嫌い】新しく家族が増えると、出かけるにしてもその子を中心に話が進められて、今まで長女ということで中心に居座ってたからか、可愛くて可愛くてたまらないのに、その存在が妬ましくなったりもする。その子だけではない。全員少なからず鬱陶しく思っている。お父さんはわがままを聞いてくれるけど、よくキレる。お母さんはなんでも話せるけど、喧嘩すると無視しだす。弟は最近優しくなったけど、着替え中に鉢合わせるとキレる。ばあちゃんは絶対怒らないけど、口うるさい。新しく家族になったとんすけ（猫）は可愛くてたまらないけど、噛みグセがある。それでも、みんな好き。この「家族」でよかった。これからもまだまだ中心にいさせてほしい。

八尋香菜

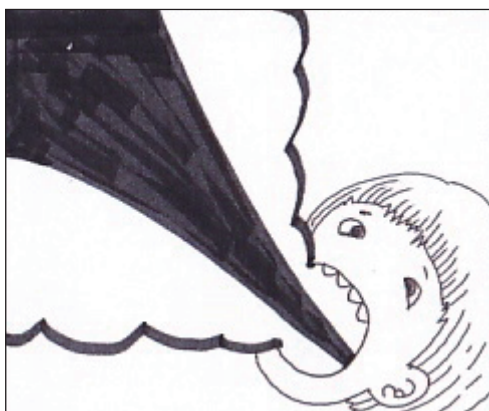


【これから】私が結婚するとして。きっと血の繋がりが無い誰かさんと私は、家族になる。らしい。「家族」の意味はいくつかあるらしく、「血縁や結婚によって関係づけられた人々」というものが、ある。らしい。関係づけられた、、なんだか無理やりな気がする。強制的、というか。血縁関係はあるいはそうなのかもしれないけど、はたして結婚もそうなのか？そりゃそういう事もあるだろうけど、なんだか言い方が気に入らない。うーん。でも、同じ家でおはようって起きてごはん食べて帰ってきておやすみって寝て。の関係では物足りないような、十分すぎるような。誰かさんと、私。結婚、家族。ウェディングドレスへの、憧れ。今年で23になる私の母が23の時に私は、母のお腹にいたのに。まだ、わからない。同い年のあいつは、わかって家族になったのだろうか。今年で2人目を生んだ、あの子は。私はまだ、わからない。

せとよしの



【幸せですが、ダメですか？】私は2番目長女の自由人。4人兄妹で、小さい頃は人並みに兄妹喧嘩もし、躰に厳しい父に怒られながら、いつも味方でいてくれる母に守られながら、すくすく育った私です。特技もなく友だちも多い方ではないし資格も運転免許くらいしかない。そんな私が唯一自信を持てることは、圧倒的な「絶望」や「孤独」を感じたことがないということ。それは役者にとってプラスにならないと何度か言われた。ダメかなあ？何度も考えながら今は自分なりの役者道があるって思えるようになったけど。孤独を感じたことないってのは福岡を離れることが少なかったのもあるけれど、物心つく頃には自分はこの世界に居場所があると無条件に思わせてくれた家族のおかげなんじゃないかしら。大人になって色々な人と話すようになって初めてわかったことだけど、これって実はものすごいことなんだって。今回この公演で家族について考える機会がたくさん。いつか恩返しできるかしら、、、道のりは遠そうだ。 酒瀬川真世



【ユメ家族】とりあえず、家族いなかったら生きてないなと思います。みんなそうなのかもしれません。なら、僕もそうです。「あーしにたいなー」とか、よく口癖というかTwitter 癖で自分の身体からモヤモヤ出てくるときがあるんですが、まあ、今生きてる通り、そんなことを実行したことはありません。本当にしにたいならとっくにしんでいます。それもこれもやっぱり家族が悲しむ顔というか傷付けたくないからなんだと思います。想像すると本当につらい。しにたくなる。本当は親父とツーリングしたり酒飲んだり、母親とお茶したり買い物したり、姉と絵画教室行ったりゲームしたりしたいですけどね。でも、なんかそれも実行に移したことがないですね。つまり、僕は なんだかんだ家族を愛している部類にいるんですけど、なんかうまくいかなくて親不孝な生活ばかり送っている感じで。こんなに近いのに、夢見てるんですね。一番現実なのに、びっくりするぐらい遠くて。死んだら嫌だな。



【家ん中】家ん中には、いつも４人と１匹。僕より遥かに賢く、僕より遥かに真面目で、僕と同じく、一つのことを考え出したら、そのことしか考えられない、、父。僕なんかよりずっと強く、明るく、いつも安心と帰る場所をくれる、僕がこの世界で最も尊敬する、、母。いつも僕の前において、ずっと背中を追いかけて続ける、背中追いかけて習い事だってしたし、福岡にだってきた、けれど、いつだって近くて遠い、、姉。出会った時はあんなにちっさくて、一緒に育って、一緒に遊んで、一年に一回くらいしか会えないけれど、いつでも僕を家族にしてくれる、つなぎとめてくれる、、犬。落ちこぼれて、わがままで、社交性がなくて、弱虫で情けない、この家で生まれ育った、、僕。これが、永遠じゃない、一緒があたりまえじゃなくなった、家族。家ん中。

石田聖也



【家族の関係】世代をまたぐ親と子の上下の関係と配偶者や兄弟の横の関係があると思っている。横の関係は、私が人生のゴールへ向かうときの同僚や仲間のような意識を勝手に持っている。上下の関係はそれらとは少し違って選手とコーチのような感覚がある。自分の人生をがんばるのはあくまでも選手である自分本人だ。母は母の理想の人生を私に強要してきた。嫌だった。私の人生は私の物なのに……。何度も言ったものだ。「俺が人生を後悔したときどうやって責任取ってくれるんだ？」と。母は口を噤むしかできなかった。当然だ。そんな責任は自分以外の誰にも取れないのだから。娘はまだ高校生なので人生の選択肢はたくさんあると思っている。その中からどれを選択するかは本人に決めて欲しいと思っている。娘が他人に迷惑を掛けたりした時には責任を取る腹積もりはある。だからといって娘の人生の決定権を私が持っているとは思っていない。なんせ娘の人生は娘の物だから。

大島えいすけ

【MOZA☆魔巢見の占い結果】

①才能が花開く時。

あなたにとって、今後の人生の宝となるような自分自身の才能を発見するでしょう。自分を育てるのは誰よりも自分自身。奥底から湧き上がる興味や関心に身をまかせましょう。

②試練の時。

あなたやあなたの周りにトラブルや悩みの多き時。嵐が過ぎ去れば必ず快晴の青空が見えることでしょう。今この時から得る学びを大切に、出来る限りの対処を行いましょう。

③全てのリセット、スタートの時。

物事を1から始めるということにチャレンジしましょう。今まで積み上げてきたものに固執せず、一度全てを捨ててしまうのも良いでしょう。その勇気ある行動は、あなたを開運に導きます。

④活動の時。

あなたの力を思う存分発揮し、出来る事はどんどん進めていきましょう。今は邪魔をするものも見当たらず、道は明るく開かれています。目標に向かって躊躇なく進んでいきましょう。

⑤探求の時。

自分自身を研究しましょう。よく分析し、自らを知りましょう。決して主観的にならず、自らに対して客観的に、冷静に。今こそ奥底の自分自身と向き合う時です。必ず大きな発見があるでしょう。

【ガルシア・ロルカの人生】

①1928年、ガルシア・ロルカはジプシー歌集という詩集を発表し、大変な評価を受けています。その美しい詩の数々は、文壇からも評価され、彼の詩人としての名を広めるきっかけとなりました。

②1936年、ガルシア・ロルカは故郷に帰り、スペイン内戦に巻き込まれ、亡くなりました。亡くなる時に彼が叫んだのは「自由」でした。彼の死は謎に包まれており、未だ全貌は明らかになっていないようです。

③1898年、ガルシア・ロルカ生誕の年です。彼はグラナダ県の裕福な農園に生まれ、小児麻痺を患いながらも、すくすくと育って行きます。後にグラナダ市へ移り、法律を学びながら青年期を過ごします。

④1932年、ガルシア・ロルカは学生劇団バラッカを設立。1933年の「血の婚礼」初演への成功へ向かって走ります。活発に活動을続け、その翌年、イェルマの上演を行います。

⑤「1919年から28年までの間、マドリードの学生の家で青春時代を過ごしたガルシア・ロルカ。サルバドルダリなどの優れた芸術仲間刺激されながら、自身の可能性を広げて行きます。」